

校長室からのお知らせ

11月5日 NO.27

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野武志

習うより慣れよ

「習うより慣れろ」が一般的かと思いますが、本来の形は「習うより慣れよ」らしいです。少し調べてみますと、「習う」とは知識や技術の教えを受けることですが、あらたまって人から教えてもらうより、実際に経験を積んだり練習を重ねたりして、体で覚えていく方がしっかりと身につくという意味だと解説されていました。

さて、この「習うより慣れよ」のことわざですが、小学生の子どもたちの教育や躰にはかなり貴重な提言になると思っています。例えば、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さについて児童朝礼や学級指導で繰り返し伝え、子どもにとって必要な習慣だということをわかってもらうことはできても、身についたかどうかは別の話になると考えています。

ところが、物心がついたときに、すでに「早寝・早起き・朝ごはん」が習慣化されていますと、夜更かしや朝寝坊を「体」が許してくれず、朝ごはんを食べなければ「体」が体力も気力も出してくれなくなるようです。実は小学校5年生までは20時就寝が我が家のルールで、小学校6年生になってやっと21時就寝になりましたので、57歳になった今も夜更かしができない体質です。ただ、ありがたいことに早寝早起きで苦勞したことはありません。

話がかかなりそれてしまいましたが、「お箸や鉛筆を正しく持つ」、「呼ばれたらハイの返事をする」、「明日の用意は今日中に済ませる」、「外から帰ったら手洗いうがいをする」、「挨拶は自分から声をかける」、「脱いだ靴は揃える」、「姿勢よく座る」、「食後に歯磨きをする」などは「習うよりも慣れよ」が効果的なような気がします。

しかしながら、「習うより慣れよ」も大きな課題があるようです。私たち大人が子どもの手本となる生活態度と行動を見せなければ、子どもにとってプラスとなる習慣を身につけることは難しいようです。子どもは大人の態度を見ながら、あいさつ、言葉づかい、公共の場所でのふるまいなどをまねして、だんだんと身につけていくようです。「やってみせ 言ってみせて させてみせ ほめてやらねば 人は動かじ」の山本五十六さんの名言が沁みます。